

教育経済常任委員会



1億7千万円の木造建築トイレ

この村は「約50年生まで育った森林の管理を、ここであきらめず村ぐるみであと50年がんばろう。そして美しい100年の森に囲まれた上質な田舎を実現していこう」と村長が呼びかけ、「百年の森林構想」が定着した。

岡山県西栗倉村

ただの田舎じゃない魅力を探る

事業は、川上と川下に分かれる。川上は百年の森林創造事業として主に役場が担い、川下は民間の株式会社トビムシが森の学校事業として担っている。

森林整備は団地化を図り、等高線沿いに作業道を整備することで、

平成30年度の実績は利用間伐118ha、作業道9.6kmである。今後は、年間1万㎡の安定的木材搬出を行っても資源は減らないと算出されているため、これを目標にする。

村内の新たな建築物は、地産地消によりほぼ村内産の木材を使って建築されている。道の駅のトイレ施設、木回廊、保育園、図書館、さらには計画中の新庁舎と続く。

集められた切り捨て間伐材や林地残材を熱源とし、エネルギー供給を産業として育てている。薪ボイラーから発生する熱エネルギーを活用し、光熱費600万円の村外流失を止めている。



保育園現地で説明を受ける



建て替えられる西栗倉村庁舎前で

「酒うらら」、昔ながらの压榨機で食油を作る「abaho(アブラボ)」などローカルベンチャーは30社以上あり、170人も雇用が創出されている。



西栗倉村

岡山県

総務厚生常任委員会

まちの公共交通の取り組みを探る

広島県神石高原町

神石高原町は、広島県の中東部に位置し、平成16年に3町1村が合併して誕生した。人口は約8800人で、山あいに10戸未満の高齢化集落が点在する。高齢化率は47%。

生活交通対策

町内には電車が通っておらず、合併時は、民間バス会社の路線バスと、旧町ごとの制度で行われていた公共交通機関があったが、多くは民間の路線バスに依存していた。

路線バスの運行系統数の減により、町営のバス制度の統一と、数度にわたる交通対策事業の見直しが行われている。

路線型をあきらめタクシー助成制度事業を開始

タクシー助成制度

(ふれあいタクシー事業)

補助対象

- ・ 満75歳以上
- ・ 身体障害者手帳、療育手帳保持者など
- ・ 75歳未満での運転免許返納者

利用目的

・ 問わない

補助内容

- ・ 片道運賃600円は利用者負担、超過分は町が補助(行先は町内のみ)
- ・ 利用回数
- ・ 1人1ヵ月30回まで
- ・ 利用タクシー
- ・ 町内のタクシー事業者

変更後も、利便性が悪く利用者減が続いた。



神石高原町

広島県

現状

- ・ 75歳以上の登録者数は64.8%、月別1人あたりの利用件数は4.1回
- ・ 平均では、運賃2950円、移動距離9km
- ・ 町負担分は毎月平均600万円

効果

- ・ 以前の制度では、年間4400人の輸送人員だったが、ふれあいタクシーでは、年間3万6974人となり大幅増となった
- ・ 輸送コストは1人5600円が1900円と下がった(総事業費は2.5倍)
- ・ タクシー事業者の存続の可能性が向上した
- ・ 利用者の満足度は94%



町役場で職員から説明をうける

課 題
・ 地方交付税の減少が続く、厳しい財政運営の中、増加する事業費
・ 制度を見直し、持続可能な制度設計が必要
・ タクシー乗務員の高齢化による稼働台数の減少
現在7社25台のタクシーが稼働し、事業を支えている。本町は2社5台で、待ち時間の問題等が考えられる。

財政面の事もあり、実施・運営においては、制度設計の十分な研究と検討が必要だと感じた。